冬至の雨[[1]](#footnote-1)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　香山光郎

雨けぶる冬至のまちを君ゆえに濡れて冷えてぞわれは歩きし

ひんがしに向ひてをがむわが子等のあとにしたがひをがむわれはも[[2]](#footnote-2)

歳暮れて明くれば五十路われ老いぬ君につかへし日は淺くして

街路樹の蔭につゝしみうなだれてひるのいのりの子等のいとしさ[[3]](#footnote-3)

1. 『内鮮一體』1941年1月号 [↑](#footnote-ref-1)
2. （宮城のある）東の方にむかって拝むわが子たちに従い、私は拝む。「我はも」の「も」は強調。なお原文は「わが子等らの」と誤植されている。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 街路樹の蔭に敬虔に頭を垂れて正午の黙祷を捧げている子供たちはいとおしい。『國民新報』に連載していたコラム「主張」の1940年10月13日に李光洙は朝7時の宮城遥拝と正午の黙祷を奨励する「街頭の訓練」を書いている。 [↑](#footnote-ref-3)